

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

12月・来年1月の活動予定

■上田恵介さん(日本野鳥の会会長)と鳥の話して忘年会

忘年会特別企画

歌に出てくる鳥の謎

上田恵介さんがスペシャル解説



上田恵介さん出演の10月18日放映BS番組「武田鉄矢の昭和は輝いていた」では語りきれなかった鳥の話を、ビール片手にたっぷり聞かせていただくプレミア企画です。

12月7日(土) 午後4時～6時

会場 かわせみハウス

参加費300円
(飲物などは持ち寄り)

★当日参加OKですが、事前に申込みいただければ助かります。
定員に達しますと、お断りすることもありますのでお早め。

主催 かわせみハウス運営委員会 ☎049-227-3001

世界中に出かけ野鳥の調査をされ、こども電話相談室の相談員やNHK番組「ダーウィンが来た」のコメンテーターで登場するなど様々なメディアで活躍されている日本野鳥の会会長の上田恵介さんは、鳩山町在住で、環境フォーラムの活動でも何かとお世話になっています。そんな多忙な上田さんに忘年会の話をしたところ、「12月7日だったら空いてるよ」とのこと。「上田さん出演のBS番組は面白かった。せっかくだから、あそこでは語りきれなかった鳥の話しをしていただいけませんか。ビールでも飲みながら」とお願いし、快諾いただきました。鳥の話しをたっぷり聞けるまたとない機会です。皆さんもぜひお越しください。



■毎月1回定例「生きもの観察会」が本格スタート



熊井の森で植物・野鳥・昆虫たちに出会う

〔主催〕NPO法人はとやま環境フォーラム TEL:049-227-3001

毎月1回定例 登録制
生きもの観察会



毎月第3日曜日

参加費
無料

午後1:30

かわせみハウス前集合

参加者登録をしていただければ、どなたでも参加できます。

汚れてもいい服装・履物でお越しください。

直接、観察集合場所に行っていたら結構ですが、足の便のない方はかわせみハウス前にどうぞ。天候等で中止や現地集合場所の変更もありますので、詳しくはお問い合わせください。♪



12月・来年1月 活動スケジュール

- 12月1日(日) 午前8時半～ 資源回収
- 7日(土) 午後4時～ 午後6時 **忘年会**
- 11日(水) 午前9時～ 畑地に物置設置作業
- 14日(土) 午後1時～ 畑地に物置設置作業(予備日)
- 15日(日) 午前9時半～ 定例理事会
午後1時半～ 定例観察会
- 21日(土) 午前9時～ **かわせみハウス大掃除**
- 22日(日) 午前9時～ トラスト3号地草刈り
- 24日(火) 午前9時～ 「熊井の森通信」37号発行
- 1月 5日(日) 午前8時半～ 資源回収
- 11日(土) 午後1時～ **会員懇談新年会**
- 19日(日) 午前9時半～ 定例理事会
午後1時半～ 定例観察会
- 28日(火) 午前9時～ 「熊井の森通信」38号発行

11月の活動報告

■小雨の中、「エコフェスタ比企in鳩山」が開催



天気予報は雨予想だった11月2日（土）、やはり小雨が昼頃までしとしと降る天気。朝、開始をどうするかを決めかねましたが、前日まで「開催するのですか」との問い合わせが数多くあったこともあり、テントを4基張って、その下で開くことにしました。あいにくの小雨降る半日の開催になりましたが、訪れる人は予想していたより多くいて、集まった人たちで賑やかな楽しく時間がもてました。

■はとやま祭り「千歯こき」で昔の脱穀体験

11月3日（日）はとやま祭り 前日とは打って変わって、澄み切った青空、晴天。第1日曜日なので古紙回収日と重なり、展示パネル、資料、展示物などの搬入を分担して段取りよく数人で行い、はとやま祭り会場でテント1基の展示の店を開設しました。今年の展示も活動紹介がメインで、収穫



イベントやハト麦栽培などの写真展示。特に注目されたのは、穀類を脱穀する昔の道具の『千歯こき』でした。テントの店先に置き、実際にハト麦脱穀を体験してもらったのですが、子どもは珍しそうにハト麦を刃にひっかけて実を落とし、大人は「知っているわよ」「子どもの頃にやったことがあるわ」などと話しかけてくれました。今年は刈り残したハト麦の穂を会場に少し持ってきて体験してもらいましたが、来年は、収穫後のハト麦をそれ用に残しておいて、もっと多くの人に体験してほしいと思いました。

■西福寺前草刈りに参加されたMTB友の会の皆さん

11月10日（日）、地元からは4人、MTB（奥武蔵マウンテンバイク）友の会が7人、環境フォーラムから4人と総勢15人が参加。地元の方から差入れ（ウーロン茶、ミカン、チョコレート、かきもち）ありで、いよいよ、9時に下熊井・西福寺前休耕地のススキ草刈り作戦GO。

大人数でやったおかげで30分ばかりで完了。「若い人手があるとこんなにもはかどるのか」と、地元の方も感心。植木住職も、車中からお礼の挨拶あり。草刈り作業の結果、

フォーラム共同菜園の1年を振り返って



はとやま環境フォーラムの里山休耕地活用活動のひとつが『フォーラム共同菜園』（略してFF1号地）です。そこで畑仕事を楽しみたいと集まった6名で、4月5日に第1回目のミーティング、4月13日にお借りした畑の一角にロープを張っての区画割りから始まり、それぞれが育てたいものを作ってきました。

夏には、ナスやスイカやミニトマト、キュウリ、ヘチマ、サツマイモ、枝豆、ズッキーナなどの夏野菜や、ラッキョウ、コーン、ハーブ、グラジオラスなどの花なども育ち、ご近所の農家さんに頂いたジャガイモと里芋もけっこうできました。形はそれぞれ、大きさもそれぞれでしたが、作物が収穫できるということは楽しいものです。

秋が深まり、大部分の作物の収穫も終わった11月、来年に向けてどうしていくかを相談しました。今年、十分に手が打てなかったことは雑草対策でした。草が、各自の畝の間や通路、畑の周りなどに茂り、秋には背高く育っていました。数回、草刈りを行ったのですが、十分ではなく、来年もこのことが大きな課題になると思いました。

11月6日、皆さんで集まり、まず雑草を刈って片づけて整理し、耕運機をかけ、分かりやすいように竹を立てて区割りしました。そして、各自の区画内の草は各自で管理し、周りの草刈りは定期的に共同で行うと決めました。

今は、次になにを育てようかと考える楽しい時期です。まだ、区画が2か所空いているので、ご希望の方は連絡ください。



見晴らしがよくなり、いかにも草刈りをした感じになりました。これでイノシシやアライグマが山から下りてきづらくなるのを期待したいものです。休憩のあと、追加で、MTB友の会の皆さんに観音寺沼下休耕地の草刈り、水路脇の雑木伐採、畑部分の立木伐採もお願いし、快く受けていただき、これまた、30分ほどで予定した広さの草刈りを完了できました。また来年お会いしましょう。

「熊井の森」は「里山」だよね 11月定例理事会で議論



11月17日(日)午前9時半～12時 11月定例理事会を開催。理事3人と企画担当者4人が出席。10月の活動報告のあと、直近の活動予定と準備作業の打ち合わせをして、他団体からの「散策路づくり中止」要望への対応、共同菜園とハト麦栽培畑に物置設置の件、自然共生サイト申請準備の現況、栗拾い体験イベントの収支報告と今後の取り組み、熊井の森写真学校の今後の活動など、討議事項が盛りだくさんでした。

今回、時間を割いて話し合ったのは、地球環境基金助成金の応募に関連して、「里山」とは何かということです。環境フォーラムはこれまでの討議で「熊井の森が、いわゆる『里山』という概念に当てはまるかどうかは検証を要するが、いずれにしても活動の出発点は『熊井の森の自然保護』である」ということでは合意を得ていて、そうした認識を元に、保全と活用の活動をしてきました。

そして、今回、「里山」という概念は受入れていいのではないか、という問題提起がありました。

熊井の森は、雑木林とその臨縁部に広がる田畑とがー帯

となって形成される。人間が介在し、一定程度の環境負荷があることを前提として、雑木林の循環的な伐採と再生を繰り返しながら形成された自然形態であり、臨縁部の田畑の活用は、中心部の雑木林の保全にも有機的な役割を持っている。我々が行っている雑木林と臨縁部の休耕地(田畑)での活動(草刈りなどの雑木林の手入れ、ハト麦栽培、無農薬共同菜園、協生農法のテスト実施、味覚体験イベント)はまさしく、「里山」での活動ではないか。

これが提案理由です。その点に関しては今回の理事会では概ね共通理解になったようですが、雑木林の再生と休耕地での活動との関連性は今ひとつ明解ではなく、これからも検証は続けます。

関連して、環境省「地球環境基金助成金」の応募事業案として提案のあった「竹林整備と竹パウダーづくり」は、現状では我々のパワー不足で取組みは非現実的だとして、断念。竹パウダーづくりの予備調査はあっていいが、現在取り組んでいる活動(自然共生サイト申請、雑木林の手入れ、ハト麦栽培、協生農法など)にしっかり向き合って、改善点は改善し、次につなげることに集中しようということになりました。

「里山」とは何か、今後目指すべき「里山」の姿は何か。会員の皆さんのご意見をぜひお聞かせください。

「自然の価値」の見える化

「熊井の森」づくりの基本知識 ⑤

森林の公益的機能の評価額(年間)

機能の種類	評価額	備考
水源かん養機能	降水の貯留 8兆7,400億円 洪水の防止 5兆5,700億円 水質の浄化 12兆8,100億円 計 27兆1,200億円	森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水、渇水を防ぎ、さらにその過程で水質を浄化する役割
土砂流出防止機能	28兆2,600億円	森林の下層植生や落葉落枝にが地表の浸食を抑制する役割
土砂崩壊防止機能	8兆4,400億円	森林が根系を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ役割
保健休養機能	2兆2,500億円	森林が人にやすらぎを与え、余暇を過ごす場として果たしている役割
野生鳥獣保護機能	3兆7,800億円	森林が果たしている野生鳥獣の生息の場としての役割
大気保全機能	二酸化炭素吸収 1兆2,400億円 酸素供給 3兆9,000億円 計 5兆1,400億円	森林がその成長の過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を供給している役割
合計	74兆9,900億円	

林野庁 <https://www.rinya.maff.go.jp/puresu/9gatu/kinou.html>

近年の自然の価値は「見える化」が進み、自然の持つ機能を貨幣に換算するという捉え方が始まりました。

自然の持つ機能は大きく2つに大別されていて、1つ目が「経済資源としての機能」です。これは所謂今まで身近に感じていた昔ながらの価値、つまり木材など資源が生産される場として、さらに動物などの狩猟、キノコや果実など食料生産の場としての機能のことです。日本学術会議によればこれらの資材や燃料、食料といった経済における価値を、市場で取引引きされる価格で換算すると、年間6,700億円にものぼるという試算が出ています。

2つ目が「環境資源としての機能」というもので、地球環境を保全する機能の総称です。森林には陸上の生物種の約8割が生息するなど、多種多様な生物の住処であり、生物多様性を維持する働きがあります。さらに、洪水や浸水を緩和し水質を浄化する機能や、土砂の流出や崩壊を防ぐ機能、二酸化炭素を吸収し貯蔵する機能、安らぎや憩いの場を提供する機能などがあり、「公益的機能」とも呼ばれ、これらは貨幣換算できるものだけで年間およそ70兆円以上とされており、生物多様性保存機能などの貨幣換算できないものも含めれば、実際の貨幣価値はさらに大きくなります。(次回へ続く)

ニ－ハオ 熊井の森歳時記

■ようやく会えた!「タコノアシ」



▲タコノアシ

11月中旬の観察会で、石場沼の下の湿地にずっと憧れだったタコノアシに会え、感動の気持ちいっぱいでした! 夏ごろにはちょっと見逃しやすいですが、秋が深かまると、柳状の葉っぱは黄葉になり、真赤な茎の先端に、果序の分枝(5本前後)に赤い実を吸盤のようにびっしりと付け、まるでタコの足のように秋の空に向き、独特な雰囲気を作り出しています。ピッタリのネーミングに思わず、ブラボー!

実は、タコノアシも薬草の一つです。清熱解毒や利水消腫などの効能以外に、それをを用いたお茶を飲むと酒酔いしにくいという効能もあり、中国の少数民族「苗族」に「神仙草」「千杯不醉草」と呼ばれているそうです。お酒好きの方は試しに飲んでみたらいかがでしょうか。

タコノアシは水田周辺や湿地にしか生えないので、河川環境の指標植物でもあります。近年、ため池の荒廃や湿地の埋立てなど激しい環境変化によって、タコノアシはどんどん減っていて、環境省及び埼玉県のレッドデータブックで絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。なんだか少し寂しいです。何か有効な保護対策または株を増やす方法があったらいいですね。(王 菲)

【活動後記】

■11.12(火) 東京から若いパワフル女性が野菜づくり畑の候補地の視察訪問。候補地4カ所を見た結果、来年2月からFF2号地(ちょっくま上のハト麦栽培の畑)で、仲間と野菜づくりをすることになった。別途、同じ場所で、活動協力者でもある飯能在住の男性も新たに野菜づくりを。■11.13(水) トラスト1号地の草刈り。観察小屋下の通路の草刈り、観察小屋の立っている平地の草刈り、その上のトラスト1号地斜面草刈り。帰路、FF1号地共同菜園に立ち寄った際、路上駐車となり、バイクとの間が狭くなっていて注意された。反省。トラスト1・2号地内通路に倒木あり。切り倒しの必要あり。■11.17(日) 取り外してあった石場沼横の「熊井の森トラスト地」案内看板を、新兵器の穴掘り機を使って、石場沼入口手前の左側道路脇に再設置。



森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ⑨

ひっそりと成虫のまま冬を越すチョウ



▲ウラギンシジミ (11月17日撮影)

チョウが一般的に暖かい季節に見かけられるのは、多くの種が寒い冬を卵や蛹で越すためですが、中には成虫で冬を越す(成虫越冬)種がいます。ここ熊井の森でもクロコノマチョウをはじめ、キタキチョウ、テングチョウ、キタテハ、ルリタテハ、ヒオドシチョウ、アカタテハ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメなどの成虫越冬をするチョウが寒い冬の時期でも見られる場合があります。

越冬場所は地面の上や木の陰、葉っぱの裏など様々です。越冬中は全く活動しないというわけではなく、真冬であっても暖かい日には陽だまりなどでムラサキシジミなどが葉表で翅を広げて休んでいる様子を度々見かけます。地面の近くで越冬する種はなかなか探しにくいのですが、葉の裏で越冬するタイプのチョウは比較的見つけやすく、散歩中にいかにも居そうな雰囲気の場所をじっくり探すとそこそこの確率で見つけることが出来ます。

越冬中のチョウは人に見つかっても寒くて逃げられないため、触ったり脅かしたりしなければ間近でじっくり観察することが出来、写真にも撮りやすいため冬のチョウ探しはお勧めです。見つけたチョウには決して触らず、十分に愛でたのち、そっと立ち去りましょう。(愛場結偉)

定例観察会のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日
場 所 : 熊井の森・石場沼下の空き地
(駐車場としてお借りしています)
現地集合時間: 午後2時(終わりは午後3時過ぎ頃)



はとやま環境フォーラムは熊井の森のより良い在り方を探るため、月に一度、熊井の森に入り、森や周辺の変化を楽しみながら、その時々に出会えた生き物を観察記録する定例観察会を行っています。

ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。

足の便の都合のつかない方はご一報を。ニュータウンかわせみハウス前に午後1時半に待ち合せて相乗りで向かい、帰りもご一緒できます。